

安曇野市のキャリア教育が目指すもの

1 キャリア教育

- ・「キャリア教育」とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育^{※1}をいう。

2 本市のキャリア教育

(1) 目的

- ・安曇野市では、教育大綱実現のため、教育・学校の将来像として「郷土への愛着と誇りを持ち、志を高く未来を切り拓く安曇野教育の実現^{※2}」を掲げ、そのための行動目標の視点の1つとして「地域の職業人から学ぶキャリア教育」を位置付けている^{※3}。
- ・安曇野市におけるキャリア教育により育てたい能力は、次のとおり。

- (1) 学ぶこと・生きること・働くことを通して、自分自身が他の人や様々な物・事との関係性を理解し、主体的に判断し行動できる能力
- (2) 自分のよさを発揮し、他者のよさを認め、夢や志をもつことを通して目標を明確にもち、未来を切り拓いていく能力

- ・これにより、「自分には得意なことや良い面がある」「人や社会のために役立ちたい」といった自己肯定感や自己有用感に加えて、「自分のふるさとが好きだ」という「安曇野への愛着と誇り」を育むことを目指している。

(2) 段階に応じたキャリア教育

- ・小学校から中学3年生まで段階に応じたキャリア教育を行うことにより、「自分らしい生き方を実現するための力」を育むことを目指している。
- ・このうち、キャリアフェスティバルは、中学1年生を対象とした事業として実施し、中学2年・3年で進路を選択していくための土台となるものとして位置付ける（詳細は資料2）。

※1 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（2011年）

※2 安曇野市教育委員会「安曇野市立小・中学校の将来構想」（2022年）14頁

※3 前掲2「安曇野市立小・中学校の将来構想」22頁

3 安曇野市キャリア教育の体系



(参考) 令和5年度 安曇野市学校教育グランドデザインとキャリア教育



＜基本理念＞ 安曇野市教育大綱（R5.4.1～R10.3.31）

- ・からだを動かし、頭で考え、心に感ずる“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を育みます。
- ・すべての人が生涯を通じて学び合い、文化・芸術のかおり高い安曇野を目指します。

「からだを動かし、頭で考え、心に感ずる」は、文芸評論家・作家・教育者の 白井吉見さん（1905-1987 安曇野市堀金出身）の講演「中学生諸君に望む」（1967）から

“未来を拓く たくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小・中学校の将来構想（R4.3 策定）

＜目指す教育・学校の将来像＞

- ・郷土への愛着と誇りを持ち、志を高く未来を切り拓く安曇野教育の実現
- ・行きたい、学びたい、地域から必要とされる魅力ある学校の創造

自ら動く児童生徒

願う 児童生徒、教師、学校の

学び続ける教師

- ・自ら考え、判断し、行動する児童生徒
- ・自分らしく、自己を表出する児童生徒

- ・豊かな発想でのびのびと自らを高める教師
- ・明るく元気に笑顔で子どもの前に立つ教師

地域へ飛び出す—地域との連携を一層強める学校

- ・地域の“ひと・もの・こと”と積極的なかわりを持ち、特色ある豊かな学習を展開する学校

重点プロジェクト

共通テーマ：中学校区ごとの特色と魅力をもつ小中一貫教育

(1) 自らかかわり合って学ぶ授業づくり …豊科北中学校区、三郷中学校区

(2) 地域と学校の連携・協働体制づくり …豊科南中学校区

(3) **キャリア教育の推進** ……**堀金中学校区、明科中学校区**

(4) ICT を最大限活用した授業づくり ……穂高東中学校区、穂高西中学校区

- ・分野別推進委員会 …「安曇野の時間」推進委員会、外国語教育連携委員会、ICT 教育推進委員会

共通アプローチ

- (1) **学力向上と ICT 機器の活用** 児童生徒の主体的な学びの推進、電子黒板や 1 人 1 台端末の活用
- (2) **成長の土台づくりと体力向上** コーディネーショントレーニング、自力登下校
- (3) **郷土愛の育成** 地域学習（安曇野の時間）、安曇野市歌、**キャリア教育**、緑の少年団活動
- (4) **共生社会の実現** 副学籍の活用と交流及び共同学習、人権や多様性の尊重
- (5) **連携と協働** 幼保小中高及び民間施設との連携、地域学校協働活動
- (6) **安曇野らしい食育** 手作りお弁当の日、生産者等との交流給食
- (7) **命を守る** 感染症等に対する適切な対応、交通事故 0 プロジェクト、防災教育の充実

安曇野市中学生キャリアフェスティバルの概要(案)について

1 令和4・5年度の先行実施の内容及び成果

令和4・5年度堀金中学校を研究指定校として「キャリアフェスティバル」を実施したところ、地域の大人から仕事のことや自分自身のことを深く考える機会となり、大きな手応えがあった。

*堀金中学校キャリアフェスティバル

【学習の概要】

- ・地元事業所、学校、行政（学校教育課、商工労政課）、堀金公民館（公民館長会）による産学官連携事業として実施する。
- ・堀金中学校を会場として堀金地域を中心とした市内の賛同企業にブース形式で出展。
- ・生徒は、対面で企業のブースを回り、企業の方と仕事や働き方について対話や仕事の様子の視聴をする。



堀金中学校 2023 キャリアフェスティバルの様子

【生徒の感想】

- ・一から考えてイルミネーションや花畑などのイベントが行われているというお話、毎年楽しく見させていただいているので、毎年新しく考えていたかと思うと、裏でたくさんの方が努力しているのだなと強く感じました。
- ・サービス業というと、あまり形になる仕事ではないと思っていたけど、お客様の笑顔をつくるとてもよい仕事だと思いました。
- ・なぜダンボールの仕事を始めたかという話で、身近なダンボールが一番地域にふれあうことができる。「たかがダンボール、されどダンボール」。ダンボールの必要性やすごさが分かった。身近な当たり前のものに興味をもち、将来の視野へと広げたい。あって当たり前ではなく、あるものへの感謝をしていきたいと思う。

2 キャリアフェスティバルの市内全校への拡大

堀金中学校の実践を基に、来年度以降、市内7中学校の1年生の生徒全員を対象にした「安曇野市中学生キャリアフェスティバル」の実現を目指す。

3 令和6年度の安曇野市中学生キャリアフェスティバルの実施概要(案)

(1) 目的

生徒が地元安曇野市にある企業などを知り、そこで働く大人の姿や考えに触れることで、自らの生き方・働く意味を考える機会とするとともに、地域の大人とのつながりを通じて郷土愛を持てるようにすることを目的とする。

(2) 内容

- ・安曇野市の中学1年生と、市内で就業している大人の懇談
- ・参加企業(団体)ごとブースを設け、①仕事内容の説明、②就職した動機、やりがい、魅力、夢、苦労話等について懇談する。
- ・懇談時間は各25分(懇談20分+感想記入5分)×3を想定する。

(3) 対象者

ア 安曇野市中学1年(令和6年度見込数 791 人)対象に、以下のとおり実施する。

日程	午前開催	午後開催
10/17	穂高西中 129 人	穂高東中 150 人
	豊科北中 119 人③	豊科南中 113 人③
	三郷中 152 人④	堀金中 76 人②
		明科中 52 人②
	計 400 人	計 391 人

イ 次の方法により企業(団体)に参加を募るものとし、40~60 企業(団体)の参加を見込んでいる。

- ① 市内に事業所を有する企業・団体・官公署のほか、医師・歯科医師等の個人経営の事業主に対し、広報等により広く参加を呼び掛ける。
- ② 商工会、工業会、建設業組合、医師会、歯科医師会、農林系団体、医療福祉系団体等の団体を通じ、これら団体への加盟者に参加を呼び掛ける。

※参加の呼び掛けについて、市長部局各課に協力を依頼したい。

(4) その他

- ・今後、生徒も参加した実行委員会について研究を行っていききたい。

(5) 期待できる効果

ア 中学生が、様々な大人と出会い、仕事への思い等に触れることで「こんな大人になりたい」という将来に向けての夢を持つことができる。

イ 中学生が大人と対話することで、安曇野市の良さを実感したり、市の現状や将来を深く見つめなおしたり、郷土愛を育む場になることが期待できる。

ウ これまで中学2年生で行われてきた「職場体験学習」に向かう気持ちが前向きになり、より大きな成果が期待できる。

エ 中学生が運営に関わることで、より自主的、主体的な学びにすることができる。

(6) 今後の計画等

令和6年2月 部長会議にて周知、各課で関わる団体の集約

令和5年度内 商工会、工業会との顔合わせ会
各小中学校の学区内にある推薦事業所の集約

令和6年4月 4月末広報（参加企業公募）

5月 5月半ばを目安に参加希望の締切

6月 おおよその参加企業決定
中学校1年生の事前学習等

7月 生徒実行委員会の組織

(参考) 伊那市中学生キャリアフェス 2023 視察報告

1 伊那市中学生キャリアフェスとは

伊那市では、平成 26 年に「キャリア教育憲章」を制定した。憲章の理念である「『地域で子どもを育てよう』子どもは地域の宝、地域の未来」に基づき、産学官が連携してキャリア教育に取り組んでいる。その一環として、市内の中学生が「地域を知り」、「地域の人とふれあい」、「地域の未来を考える」日として中学生キャリアフェスを開催している。主催する「伊那市中学生キャリアフェス実行委員会」は、市内の産学官協働の組織である伊那市キャリア教育推進委員会構成団体のメンバー（大人実行委員）と市内 6 中学校から 2 人ずつ選出した生徒代表 12 人（生徒実行委員）で構成している。

2 伊那市中学生キャリアフェス概要

参加生徒数：伊那市内 6 中学校 2 年生 約 590 人

（伊那中・東部中・西箕輪中・春富中・高遠中・長谷中・伊那養護学校）

出展ブース：全 84 団体

場所：エレコム・ロジテックアリーナ（伊那市民体育館）

主催：伊那市中学生キャリアフェス実行委員会

後援：郷土愛プロジェクト

3 出展ブースについて

各出展ブースに貸し出すものは、長机 1 つパイプ椅子 2 つのみ。事業所によっては、椅子を準備したり、その場に座らせたり、体験型にしたりと形態は様々。

開始時間と終了 5 分前のアナウンスはあったが、時間を明確に区切るわけではなく、自由にブースをめぐっていく。



4 視察を通して

- ・伊那市内の中学生が、地元の企業などを知り、そこで働く大人の姿や考えにふれることで、自分の生き方や未来について考える場となっていた。
- ・伊那市内の 6 中学校の 2 年生全員が一堂に集まることで、他校の雰囲気や学びの過程を知る貴重な機会となっていた。
- ・ブース巡りの後の交流タイムは、自分の考えをまとめ、表現するのに生徒・参加した大人にも大変有効な時間となっていた。
- ・市内 6 中学校から 2 人ずつ選出された生徒代表 12 人が、当日の運営等意欲的に活躍していた。

小規模特認校制度導入の進捗について

1 経緯

令和5年7月（第1回総合教育会議）以降の進捗状況は以下のとおり。

(1) 7月27日 教育委員会定例会

概要：安曇野市立学校通学区域審議会へ諮問する内容の協議

詳細：諮問事項を「明北小学校への就学について、従来の通学区域は残しつつ市内全域から就学を認めることについて、貴審議会の意見を求める。」ことに承認。

(2) 8月23日 教育委員会定例会

概要：小規模特認校制度の導入に向けたスケジュールの決定

(3) 8月30日 明科南認定こども園保護者説明会

概要：小規模特認校制度説明

詳細：保護者からは、「通学方法」「中学進学先」「制度導入による効果」等の質問。

質問に対して、「保護者送迎を想定していること」「住所地指定校との選択を検討すること」「急激な児童増でなく年に数名程度の増加であること」を回答。

(4) 8月31日 明科北認定こども園保護者説明会

概要：小規模特認校制度説明

詳細：保護者からは、「他市の導入きっかけ」「教育課程」「定員」等の質問。質問に対して、「複式学級が導入されるなど著しく児童が減少したこと」「教育課程は変わらず、それに加えて廃線敷やかんだち山といった資源が魅力であること」「30人を超えるような学級にならないこと」を回答。

(5) 9月28日 第1回安曇野市立学校通学区域審議会

概要：諮問審議

詳細：審議内容には、「選択肢が広がる点はよい。」「地域の学校が存続することは大切。」「先を見据えて考えることは大切。」「他地域から通う課題はあるが、門戸を開くことは適当。」「課題の先送り、慎重に検討した方がよい。」「進学時に明科中学校にも行けるとよい。」「今後、他の学校でも同じ課題が生じた場合に小規模特認校制度の導入について検討してほしい。」等の意見。

(6) 10月10日、同月23日、11月7日 明北小学校保護者意見交換会

概要：小規模特認校制度説明及び意見交換

詳細：保護者からは、「子どもが増えることはよいこと」「魅力のある学校であること」「卒業後は明科中学校への入学も検討してほしい。」「明北小に専門的な

職員の配置等配慮をしてほしい。」といった肯定的な意見。全体的に明北小学校の保護者からは、反対でなく、前向きな意見。

(7) 11月22日 第2回安曇野市立学校通学区域審議会

概要：答申の協議

詳細：諮問内容は適当であると判断。答申事項は「明北小学校への就学について、従来の通学区域は残しつつ市内全域から就学を認めることについては、適当である。」と決定。

(8) 12月5日 安曇野市立学校通学区域審議会答申

概要：会長から教育長へ答申提出

(9) 12月26日 教育委員会定例会

概要：答申を踏まえ、小規模特認校制度の導入決定

詳細：答申とこれまでの保護者意見及び審議会での意見について報告。導入決定と併せて、いただいた意見を考慮すると共に教員の負担にならないように進めていくことを確認。

2 今後の予定

令和6年 2月 認定こども園及び小学校へ制度周知

教育委員会定例会（要綱等の協議）

4月 募集案内等により、園長会・校長会へ周知依頼（保護者へ周知依頼）

5月 小規模特認校制度による転入学者の受付開始

6月 明北小学校公開授業

明北小学校授業参観、学校体験、校長面談

11月 小規模特認校制度による転入学者の審査及び決定

令和7年 4月 明北小学校での小規模特認校制度による転入学者の就学開始